

米国高校生と熱く討論

全国から派遣、国連見学も

浦和ルーテル学院高校(さいたま市緑区大崎)2年の福元まりあさん(16)と、本庄東高校(本庄市日の出1丁目)2年の遠藤優貴さん(16)は、「高校生外交官」として米国東海岸を訪問している。AIU損保が全国の高校生40人を派遣して実施している国際交流プログラム。7月18日から約3週間、現地の高校生と多様な社会や政治参加などについて、英語で議論を交わしている。(江田崇)

福元まりあさん (浦和ルーテル高) 2年

遠藤 優貴さん (本庄東高) 2年

同プログラムでは、AIU損保が全国の高校生を米国に無償で派遣している。7月16日から国内合宿を行って国際平和などについて議論を深め、同18日に渡米。ワシントンやニューヨークで国防総省、国連などを訪問後、最後の10日間はプリンストン大学の寮で現地の高校生40人と一緒にルームメイトとして生活しながら、英語で意見交換する。8月7日に帰国予定。

今年は900人以上の応募者があり、県内からは福元さんら2人が選ばれた。渡米前の取材で、福元さんは「米国の高校生が政治などどんな考えを持っているのか確かめたい」、遠藤さんは「埼玉を代表するアニメ『クレヨンしんちゃん』など、日本の素晴らしさを伝えたい」と抱負を述べた。

高一で英検準一級を取得し

「日本の素晴らしさを伝えたい」



「高校生外交官」として渡米した(左から)遠藤優貴さん、福元まりあさん＝7月14日、さいたま市内

ている福元さんは「小学1年からネイティブの英語の先生と話すのが楽しかった。国際機関などに行けるこのプログラムで夢、世界を飛び回るの機会を思い出し、終わらせたい。充実した数週間にする」と目を輝かせていた。

ラムは以前から参加したかった。合格した時は母親と抱き合って泣きました」と喜ぶ。米国では日本の高校生が5人1組になって発表を行う。事前にインターネットを介して英語で議論を深めてきた2人。福元さんは「将来は国際報道に携わりたい。これから数週間の経験を絶対に生かす」。遠藤さんは「国際的な仕事に就き、世界を飛び回るの夢。将来のためにもこの機会を思い出し、終わらせたい。充実した数週間にする」と目を輝かせていた。